

我が国は、今、困難のさなかであり非常事態。仙台市議会は市民のため時間を無駄にせず、早急に叡智を結集し、コロナ対応を進めていきます!



## 答弁概要

(令和3年6月15日 仙台市議会 第二回定例会 代表質疑)

### 1. 郡市長 4年間の総括について

#### ●4年間の市政の評価についてと今後の方向性について伺う

4年間の市政についてと今後の方向性に関してです。

この4年を振り返りますと、まず、本市の教育現場で発生をいたしました大変痛ましい事件を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、議会の皆様方とのご議論を踏まえながら、いじめ防止条例を制定したほか、切れ目のない子育て支援や歴史を活かしたまちづくりなど、市民の皆様方とお約束をいたしました各般の施策に取り組んできたところです。

一方、このまちの未来の方向性を示す新基本計画の策定に取り組む中で、私は、奥山市政の中で掲げられました「防災環境都市」としてのブランド力を高めること、このことはこれからの都市間競争を勝ち抜いていくための本市の強みとなるものと考え、これを継承・発展をさせ、計画の中に盛り込みました。

今後とも、本市が培ってきた強みを活かし、協働と挑戦を重ねながら、すべての市民の皆様が幸せを実感し、輝くことができるまち仙台の実現に向けまして、全力で市政運営にあたってまいります。

#### ●創例主義についてと市役所を改革する取り組みについて伺う

創例主義と市役所を改革する取り組みについてです。

各般に亘る施策の推進にあたり、市民に最も身近な基礎自治体として継続して進めていかなければならないものがある一方で、変化の激しい時代にあって、状況の変化や市民生活の実際の現場で起きていることを敏感に感じ取って、それに即応して果敢かつ柔軟に対応していくこと、これも求められるものです。

私は、市長就任にあたり、こうした今日的な課題に対応していくためには、前例にとらわれず、積極的に挑戦していくこと、この必要性が大きいとの思いのもと、創例主義を掲げまして、これを新たな組織風土として根付かせるために、職員に意識改革に取り組んでもらいたい、その思いで、この間、やってきました。

今般の新型コロナウイルス感染症への対応という、これまで経験したことのない業務に対しまして、困難な課題に果敢に挑戦する職員の気概があらわれておりまして、感染拡大防止や市民生活支援などを担うそれぞれの職員が、いま何をなすべきなのか主体的に考え、粘り強く行動する、こうした姿勢にもつながって

いると認識しています。

ポストコロナも見据えた今後の仙台のまちづくりに向けては、感染症対応等で発揮された、職員一人ひとりの新たな発想やスピード感を持って対応していくことが、ますます求められているものと認識をいたしまして、109万市民の福祉の向上という共通の目標実現に向けて、私自身先頭に立って、更なる取組みを進めてまいります。

### 2. コロナ禍における本市の対応について

#### ●コロナ禍における本市の対応について伺う

およそ1年半にもおよぶ新型コロナウイルスへの対応において、私は、市内の感染状況等を踏まえて、有識者の皆様方のご意見を伺いながら、市民の皆様への命と健康を守ることを最優先に、各般の施策や事業を展開してきました。その中では、例えば「新しい生活様式」を「せんだい生活スタイル」として市民の皆様への定着を図るなど、早い段階から様々な工夫も行ってきたところです。

3月から4月にかけての感染の急拡大に際しましては、一時的に検査待ちの方が増えて、病床がひっ迫する大変厳しい状況となりましたが、時短要請も含めまして市民の皆様、事業者の方々のご協力のもと、また全国各地からの専門職の応援に加えて、全庁応援体制を構築し、保健所や検査体制の強化を図って、対応にあたってまいりました。さらに、長引くコロナ禍で市民生活や地域経済にも影響が出ており、市民の皆様や事業者の方々のニーズや、議会での議論も踏まえながら、困難を抱えた女性の皆様への支援や第2次の関連事業者支援金を今議会に提案させていただくなど、時宜に応じた施策も打ち出してきたところです。

今後起こり得る感染再拡大を想定いたしまして、その予兆を把握する取り組みに加えまして、全庁応援体制の拡充についても既に指示をしておりますが、引き続き、市民の皆様、事業者の方々の声に耳を傾けながら、議会の皆様と手を携えて、感染拡大防止と地域経済の再生、必要な支援の充実に全力で取り組んでまいります。

### 3. 新型コロナウイルスに対応するための事業の見直しについて

#### ●財源確保について伺う

市政運営における財源の確保についてです。

今般の補正予算案におきまして、感染症対策や事業者支援を最

優先で進めるために、令和3年度当初予算に続きまして、市債管理基金からの借入という特例的な財源対策を講じざるを得なかったところです。

今後、感染の再拡大の防止や収束期における地域経済の回復などの確に対応して、全力で取り組んでいくためには、財源の確保、これは急務です。

そうした認識のもとで、市民生活や地域経済への影響を見極めつつですが、改めて、中止、延期、あるいは縮小が可能な事業を洗い出すべく、全ての事業・施策の総点検に着手したところです。

現行の市役所経営プランの実施項目の精査や取り組みの拡充等の検討と併せて、こうした取組を進め、また国に対する一層の財政措置の働きかけも行って、必要となる予算を確保してまいります。

## ●事務事業の見直しについて伺う

事務事業の見直し等についてです。

現在の厳しい財政状況及び将来見通しの中において、必要な施策を推進する財源及びマンパワーを確保していくためには、既存の事業であっても改めてそのあり方を見直す必要があるものと認識しています。

現在、事業の必要性の精査や、民間活力の活用、実施手法の改善などの視点を各局と共有しながら、それぞれの行政課題や現場の実情等を十分に踏まえて急ぎ検討を進めているところです。

今後、今回の業務量調査を通じた業務見える化による効率化とあわせて、次年度予算編成や経営プランの改定等に向けて取り組んでまいります。

## ●音楽ホール等の大事業の再構築について伺う

音楽ホール及び中心部震災メモリアル拠点の整備についてです。

東日本大震災からの復興の過程においても示されたように、音楽をはじめとする文化芸術は、困難な状況を乗り越えていくための大きな力になるものと認識をしています。

音楽ホールは、本市が長年に渡って培ってきた楽都の音楽文化をさらに発展させるのみならず、仙台の街に新たな魅力をもたらす文化芸術の総合的な拠点として、是非とも本市が備えるべきものであると考えています。

また、中心部震災メモリアル拠点は、東日本大震災の被災地、東北の中心都市として、震災の経験・教訓の次世代への継承、また、国内外への発信を通して、防災・減災に貢献する役割を担うものと考えています。

両施設とも、本市の将来を見据えたまちづくりにとって大変重要なものと認識しておりまして、今般のコロナ禍による大変厳しい経済情勢・財政状況、これを十分に踏まえ、財源の見直しを持って進めることが極めて肝要です。

引き続き、それぞれの役割や経緯を考慮しつつ、整備内容やコストの削減など、財源確保策などについて精査を行いながら、市民の皆様が誇りに思えるような施設となるよう、着実に検討を進めてまいります。

## 4. アフターコロナを見据えた施策等について

### ●アフターコロナを見据えた対応について伺う

コロナを踏まえた施策の柔軟な対応についてです。

昨年来のコロナ禍は、人々の暮らしや地域経済に深刻な影響を及ぼす一方、デジタル化やライフスタイルの変容、地方への関心の高まりなど、様々な変化をもたらしています。

新たな基本計画は、コロナ禍に伴う社会の変化についてもご議論をいただきながら策定を進めてきたものであり、デジタル化などの技術を積極的に取り入れ、変化の中から新しい可能性を見出すといった視点も盛り込み、今後10年間の本市施策の大きな方向性を掲げたものです。

今後、コロナ禍をはじめとした状況の変化により、予定していた事業の大幅な見直し等が必要となった場合には、各年度の予算編成や3年ごとに策定する実施計画などを通じ、時々の変化に適切に対応していく考えです。

### ●コロナ禍における避難所運営について伺う

コロナ禍における避難所運営についてです。

新型コロナウイルス対策を講じた避難所運営が円滑に行われるよう、昨年度、避難所運営マニュアルの追加事項を別冊として作成するとともに、パーティション、アルコール消毒液などの備蓄品の配備を完了しました。

同時に、市民の方々に、指定避難所だけでなく、安全を確保できる親戚や知人宅に避難を促すなどの「分散避難」についても周知・啓発を行っているところです。

現在、新型コロナウイルス感染症対策に対応するため、各局から多くの応援職員が健康福祉局などに派遣されているところですが、このような中でも大規模な災害が発生した場合、しっかりと災害対応体制が確保できるよう、庁内に改めて周知したところです。

コロナ禍での災害対応については、様々な困難も想定されますが、市民の皆様には引き続き分散避難の周知に努めるとともに、さし迫る生命の危機からの安全確保を最優先に、避難所での感染症対策を徹底することにより、適切な運営体制を構築してまいります。

## 5. 泉パークタウン朝日地区計画について

### ●高森地区等の課題認識について伺う

泉パークタウンのスマートシティモデル事業に関する数点のご質問にお答えします。

はじめに、高森、寺岡地区などの課題認識についてです。

令和3年4月1日現在の住民基本台帳人口によりますと、高森地区の高齢化率は34.5%、寺岡地区は44.4%、桂地区は28.8%、紫山は13.1%であり、造成年代の違いにより高齢化の進行が異なります。

高森、寺岡、桂の3地区は、市全体の高齢化率より高く、商業、医療など暮らしに必要な都市機能の維持、移動手段の確保、地域コミュニティなど、高齢化の進展による地域活動や生活利便性への影響が懸念されるところです。

また、紫山地区については、現在は高齢化率が低いものの、将

来的には同様の状況になるものと考えています。

### ●スマートシティの具体的な取組みについて伺う

スマートシティモデル事業の具体的な取組みについてです。

この事業は、ICT等の先進的技術を活用した施策の実施により、住民主体で、郊外住宅地が抱える高齢化などによる諸課題の解決を目指すものであり、令和元年8月に、本市も含む関係者による官民連携の協議会を設立して取り組んできました。

具体的な取組みとして、自立型の地域交通システムの構築に向け、寺岡地区において、太陽光発電で充電したEV車のオンデマンド交通の試験運行などを行ってきたところです。

また、開発が進行している朝日地区においては、ICT等を活用し、次世代型高齢者施設における、健康寿命延伸に向けたサービスの展開、地域独自の荷物の一括配送サービスや、家事・買い物の代行サービスの実施の他、地域交流イベントの開催など、生活支援とコミュニティの活性化を図る取組みを検討しているところであり、住民主体のタウンマネジメント組織の運営による、自立的なまちづくりを推進するものです。

### ●地域課題解決への寄与について伺う

モデル事業の地域の課題解決への寄与についてです。

モデル事業の実施により、オンデマンド交通の運行による移動手段の確保、生活サポート機能の導入による生活利便性の向上など、泉パークタウンを取り巻く多くの課題解決に効果があるものと期待しています。

また、モデル事業から得られるノウハウは、他の郊外住宅地における課題解決に向けた一つの事例としても有用なものと考えており、今後、このような取組みを、少子高齢化社会における、持続的なまちづくりにつなげてまいりたいと考えています。

### ●子育て世帯の住み替えについて伺う

若年・子育て世帯の住み替えに対する行政としての対応についてです。

今年3月に策定いたしました、仙台市住生活基本計画では、若年・子育て世帯の既存住宅等への住み替えを促進する方策を、新たな取組みに位置づけたところです。

現在、住み替えにあたっての課題やニーズを把握するためのアンケート調査や事業者ヒアリング、他都市での取組みなどを踏まえ、団地内外からの住み替えに対する、親世帯との近居等も含めた子育て世帯等のニーズに即した、情報発信や負担軽減などの取組みのあり方を検討しているところです。

今後とも、良好な住環境が次の世代に継承されていくよう、不動産事業者や関係部署などとも連携・協力し、若年・子育て世帯の住み替えの促進を目指した、効果的な施策につなげてまいりたい。

### ●車以外の交通手段の確保に向けた取組みについて伺う

車以外の交通手段の確保に向けた取組みについてです。

路線バスは、高齢者など移動手段を持たない方々の買物や通

院など、暮らしや地域経済を支える重要な都市インフラであると認識しています。

泉パークタウン朝日地区につきましては、開発事業者と交通事業者との間で、現在、バス路線の開設に向けてバス停の位置やルート等について調整が行われていると承知しています。

本市といたしましても、地域の移動手段が確保されますよう情報共有を図り、必要に応じて意見交換などを行いながら、連携して取り組んでまいりたい。

今後とも持続可能な公共交通ネットワークを構築していくことで、過度に自動車に依存しない都市交通の充実を目指し、様々な取組みを進めてまいります。

### ●朝日地区東工区の学区について伺う

泉パークタウン朝日地区東工区の学区についてです。

朝日地区につきましては、現在は、根白石小学校及び中学校の学区となっています。

学区は通学する距離や地理的状况等を考慮し、設定していますが、開発等により地域の状況が変わる場合には、当該地域から小中学校までの距離や、通学の安全性等を踏まえ、学区変更の要否を検討することになります。

今後、このような点を考慮するとともに、関係する地域の皆様、開発事業者等のご意見を伺いながら、宅地の販売時期も勘案し、適切な時期に判断してまいりたい。

## 6. 新型コロナウイルスのワクチン接種について

### ●接種見込みと予約状況、効果の持続性について伺う

高齢者向け接種の進捗状況等についてです。

65歳以上の高齢者の方への接種につきましては、6月11日時点で、1回目接種を終えられた方が約10万人、2回目まで終えられた方が約3千人となっています。

これまでの予約状況につきましては、個別接種で6月末までに約13万人の方が予約されており、これに集団接種約2万人、大規模接種約3万人を加えますと、合計約18万人の方の予約があります。

また、7月末までの間に接種可能な回数としては、個別接種で約35万回、集団接種で約6万回、大規模接種で約13万回、合計54万回分の体制を整えているところです。

副反応が疑われる事象については、国が医療機関等からの報告により情報を把握することになっており、国の報告によると、これまで医療機関から副反応疑い報告のうち、「関連あり」として報告されたものは、5月30日現在で、約1,300万回の接種のうち約7,500件であり、うち重篤の報告は約800件となっています。

また、ワクチンの有効性につきましては、現時点で国から示されているものではありません。

### ●ワクチン忌避について伺う

市民に向けたワクチン接種勧奨についてです。

この度のワクチン接種については、市民の皆様安心して接種を受けていただくためにも、ワクチンの効果や接種後の副反応などに関する適切な情報発信が必要と考えています。

これまでも本市ホームページ等を通じて、関連する情報についてお伝えしてきました。今後も、市医師会のご協力などもいただきつつ、市民の皆様へわかりやすい情報をお届けできるよう、発信の手法や内容について工夫をまいります。

## ●予約の偏りやわかりやすい公表について伺う

個別接種の円滑な推進に関してです。

個別接種における各医療機関の予約状況に関しては、仙台市医師会より、6月末までに約13万件の予約を受けている一方、診療科等によって偏りが生じていることも伺っており、現在、市民の皆様へのお知らせ等の対応について協議しているところです。

これまでも、一定期間ごとに接種済み数等を公表しているところですが、ワクチン接種の予約状況等をわかりやすくお知らせし、接種を希望する方々の速やかな接種に向け引き続き取り組んでまいります。

## ●12歳から15歳のワクチン接種について伺う

15歳以下の方に対する接種についてです。

対象年齢が12歳まで拡大されたことを踏まえて、その対応について、現在、医師会をはじめ、関係部局とも協議を行っています。

その中で、接種の有無による学校生活等への影響や、保護者承諾の確認手法など、様々な検討するべき事項についてご意見をいただいています。

今後、国から通知等で方向性等が示されるものと考えておりそれらも踏まえつつ、適切な対応について整理してまいります。

## ●情報を可視化する努力について伺う

適切な情報発信についてです。

これまでもワクチンに関する適時適切な情報発信に努めてきたところですが、この間、急ぎ対応が必要であった案件等について、市民の皆様へのお知らせが遅れた部分があったことは認識しています。

大規模接種や集団接種の予約状況やワクチン接種に関する国の動向などについては、市ホームページ等を通じてお知らせしていますほか、接種実績につきましては、毎週木曜日に定例報告会としてせんだいTubeで公表もしています。

ワクチン接種に関する情報につきましては、市民の皆様への関心が非常に高いことですので、様々な媒体を通じた丁寧な情報提供について、引き続き取り組んでまいります。

## 【再質問】

### 新型コロナウイルスのワクチン接種について (接種見込みと予約状況、効果の持続性について)

先ほどもご答弁申しあげましたが、副反応については、接種をした、あるいはそれを診断した医療機関から国に対し報告をするというものになっていますので、本市域の数字というものが把握できるかどうか、また公表できるかどうかについては私どもの方で確認してまいります。

いずれ市民の方々は、このワクチン接種に関する様々な情報を必要とされており、また関心も高いものと思っていますので、各般の情報につきましては引き続き希望する方の接種につながっていくように適時適切なお知らせに努めてまいります。

### 新型コロナウイルスに対応するための事業の見直しについて

#### (音楽ホール等の大事業の再構築について)

音楽ホール、メモリアル施設について、財源の見直しを持ちながらやっていかなくちゃいけないことだというふうに思っています。

また、コロナ後を見据えたまちづくりの中では、大変重要な施設ですし、そしてまたこれはお金を稼ぐ施設にもなり得るものです。そういう意味でですね、考えていかなければならないというふうになっています。

#### (財源確保について)

事業の存廃についてです。

重要な視点でありますので、今般このような取り組みをしてもらっているわけです。今まさに検討状況にございますから、その検討状況を取りまとめた上で、どのように考えるべきか、二役で相談をするべきものと考えています。

### 4年間の総括について

#### (今後の方向性について)

既にこの間、多くの市民の皆様さ方向に、また議会の皆さま方向にも参加をいただきまして、今後30年を見通した上での10年の取り組みとなる基本計画をスタートさせているところです。

そういう意味では、そこに盛り込んだ施策について着実に進めるということはもとより、このコロナ禍で大変厳しい状況に置かれた貧困の連鎖に代表されるような問題について、あるいはまた、厳しい状況の経済、これをどういうふうに向かさせていくのか、そしてまた、東北を牽引できるような経済を確固たるものにつくっていく施策について、また、切れ目のない子育て支援について拡充していかなければなりません。子どもの数が減少していく中で、仙台で子どもを産みたい、仙台で子育てをしたいというふうになってもらえる施策を打ち出していきたいと思っています。

おむすびシートとともに  
これからもみなさんの想いと市政を  
しっかりとつなぎます